



ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

令和元(2019)年

9月21日発行

第19号

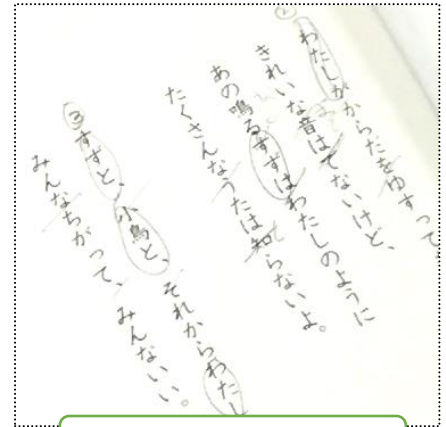
文責(校長)片山 隆

夢のふくらむ学校

日本語の保持について、体験談を参考に！(月刊海外子女教育8月号より)

補習校の目的の一つに、「帰国後のスムーズな適応のための日本語能力や国語算数・数学の学力の保持」があります。最近の傾向として、在籍するお子さんの生育環境がそれぞれ異なり、能力やニーズも多様化していることがあげられます。「週1回補習校の授業だけで日本語能力が向上するのか」と言われると正直難しいと言わざるを得ません。「補習校は第1の教室、家庭は第2の教室」と文科省でも位置づけられており、「補習校は、家庭学習の成果を持ち寄って学ぶところ」であるとも言われています。週6日間の家庭での日本語環境が非常に重要です。

(財)海外子女教育振興財団発行の月刊誌「月刊海外子女教育8月号#558」に、「海外で日本語を身につける」という特集がありました。いかにして海外で日本語を身につけたか、具体的な体験談が掲載されていたので、財団様より許可を得てここに(部分)転載させていただきます。ご家庭での日本語の保持の参考になれば幸いです。



教科書に家庭学習の跡が。

★G・Mさん(ドイツ生まれ、同地在住、高校2年生)

中2の時、補習校の友達の会話についていくためにアニメを見始めた。時間が経つにつれてドイツ語のサブタイトルを見なくてもよくなっていった。新しく学んだ言葉や言い回しを実際に使ってみたくなり、「ここぞ」と言うときに使うようにしてみた。急に私が今までのレベルと違う的確で格好良い日本語を話すようになると、母の反応がとてもおもしろく、びっくりしながらもいつも褒めてくれた。自分の成長に気付いてくれる人がいることはすごく嬉しかった。

★M・Aさん(フランス生まれ、同地在住、高校3年生)

私は毎朝、音楽・ニュース・スピーチなどをかけながら身支度し、朝食を摂ります。何の違和感もなく日本語が流れている環境で過ごすうちに、自然と学習していました。学校からの帰宅後、楽しみなのが録画した日本のアニメや漫画です。その時間を作るために、「明日の準備を忘れない」「現地校の宿題は休み時間に終わらせる」などの決めごとを作りしっかり守りました。そして、一日の終わりは日本語の日記で締めくくり、好きな言葉、印象に残った出来事を書き留めることにしました。後で読み返すと思い出が増え、間違いも発見できます。シールや絵を添えると楽しく続けられます。

★N・Aさん(イタリア在住、高校2年生)

私の日本語学習のポイントは、国語の教科書をくまなく勉強したことでした。当時、家の台所に「ひらがな」や「カタカナ」の表が貼ってあり、母とは日本語で話し、日本の童謡・絵本・子ども向けの番組のビデオやアニメを見ていたので、自然に日本語に慣れることができました。補習授業校では、教科書を音読する宿題が出されます。音読は効果的な学習方法でした。なぜなら、母に聞いてもらって自分の発音を直してもらったり、読めない漢字を教えてもらったりすることで日本語らしい話し方ができるようになったからです。

小学校高学年になると、音読は私の生活の一部になっていました。国語以外の教科書も音読するようになりました。すると、それまで知らなかった語彙や知識が増えて日本語力の向上につながっていきました。

★K・Aさん(三歳から在米、高校2年生)

私の両親は、日本の歴史や文化などたくさんのことを教えてくれました。読書に関しては、補習校の図書館で借りた本や一時帰国したときに購入した本を読み続けています。幼児期に車の中には常に日本の絵本やなぞなぞの本、短編などの本が数冊置いてあり、送迎時の移動や待ち時間を使い読み聞かせてもらったり、字が読めるようになってからは私が音読し母に聞いてもらったりしました。

小学校高学年になると邦楽を愛聴し、歌詞とその意味を調べながらたくさんの曲を聴くようになりました。言葉を巧みに使う作曲家・作詞家をもっと知りたいという探究心で、インターネットで作り手の背景や作品のインタビューなどを調べ、日本語を吸収しています。



W校：図書貸し出し前の挨拶



L I 校：図書の整理をお手伝い



L I 校：午後補習（平仮名の確認学習）

補習校では、日本語の図書をたくさん所蔵しています。毎週貸し出しを行っていますので、お子さんが借りた本と一緒に読んだり、読み聞かせたり、感想を聞いてみたりなど、ご活用をお願いいたします。

言葉は、繰り返しの訓練が必要です。「話す・聞く」だけでなく、「読む・書く」ことについては、習得にそれなりの時間が必要です。現地校の課題や習い事等で忙しい子どもたちですが、表面の実践事例を参考にしながら、各ご家庭でも創意工夫の実践をお願いいたします。

「Dear Teacher」について

ABC



補習校は、現地の公立学校を借用しています。教室を借用させていただくのですから、借用料を払っているからとはいえ、その教室の担任の先生にはたいへん気を遣って使用しています。（借用料がその教室の担任に入るわけでもありません。）土曜日の朝の教室の状況を写真に撮り、授業終了後にはその通りに復元します。当該教育委員会や借用校の校長先生はじめ先生方の理解と協力がなければ、補習校は成り立ちません。幸いL I校のBay Side High School及びW校のPort Chester Middle Schoolともに、たいへんに理解の深い校長先生に恵まれていることには、感謝の気持ちしかありません。

そのような状況の中で、本校では、毎学期はじめに現地校の各教室の担任宛に「Dear Teacher」というレターを差し上げています。教室を使用させていただくことへの感謝の気持ちと、何か異常等があった場合の連絡について記しています。顔の見えない関係であるからこそ、手紙を通して教室を使わせていただいていることの感謝の気持ちを伝えます。

教室はもちろん施設設備について感謝の気持ちをもって大切に使用するよう、補習校では折に触れて指導しているところですが、借用校との一層の良好な関係の維持に、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。お子さんにも、分かるようにお話しくだされれば幸いです。

早稲田大学の説明会

14日にL I校、W校でそれぞれ早稲田大学学校説明会が開催（保護者会主催）されました。同大学のアドミッションオフィスよりお二人が来校され、早稲田大学の特徴はじめ学部の内容、英語によるカリキュラムなどの話を伺いました。説明後は、保護者の皆さんから、授業料や入試の実態などについて熱心な質問が出ていました。両校で100名を超える保護者の参加があり、関心の高さがうかがえました。



W校での早稲田大学説明会の様子

体験入学・一時入学アンケート提出のお願い

今年も、約30名の児童生徒が帰国中に体験入学・一時入学に臨みました。

つきましては、今後の補習授業校の運営の参考にいたしたく、「体験入学・一時入学アンケート」をホームページからダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、**補習校事務所（教務補佐室）まで直接ご提出**をお願いいたします。（メール添付でも構いません。hoshuko@jwsny.org）